

# グループ紹介

## 歌謡サークル 洋薫会

## ハート・男の料理



私たちは、生涯学習センターきらめき講座「リズムから入る歌謡講座」の修了生の幾人かが集まってできたグループです。歌謡音楽の趣味を通して、歌唱力の向上と共にメンバー同士の親睦を図っています。洋薫会を立ち上げた当初はメンバーは約10人でしたが、その後増えて現在は約20人です。年齢は40歳代から70歳代と幅広く、男性が女性より少し多くなっています。

練習は生涯学習センターきらめきで行っています。月に2・3回集まり、そのうちの1回は、歌唱力の向上のために先生に来ていただき指導を受けます。まず、音階の発声から始めて、次にカラオケを使って一人ずつ個別に自分の好きな歌を歌います。先生からは、「言葉をはっきり言いましょ」「この所はもう少し長めに歌いましょ」「ここは声を高くした方がいいですよ」などさまざまなアドバイスをいただきます。

自主活動では、先生に指摘された所を参考にして、各自順番にカラオケで練習します。ほかの人はそれをじっと聴いています。人の歌を聴くことも練習になるからです。先生の的確なアドバイスで、メンバーは着実にレベルアップしています。中には人前で歌ったことがなく、退職を契機に何とか人前で歌いたいとメンバーになった人もいます。一人で歌わなければならない前日の夜は眠れないことがあったそうです。今では楽しく歌うことができるようになったといいます。

12月には、生涯学習センターきらめきで行われた「きらめきフェスタ2008」に出場して、練習した曲を披露しました。

これからも、メンバー同士、和気あいあいと楽しく練習を続けたいと思います。

毎月1回土曜日に、エプロンを掛け頭にバンダナを巻いた前期高齢者約30人が生涯学習センターきらめきに集まって料理をする姿を想像できますか？

10年ほど前に、茨木市の障害福祉センターハートフルで、男性料理講座が開催され、それに参加したメンバーを中心に、「ハート・男の料理」が結成されました。男性料理教室としてはパイオニアの部類に入るのではないのでしょうか。

それぞれ入会の動機は異なり、料理をすることが純粋に好きな人から、一人残された時のために参加している人などさまざまです。腕前もプロの板前に相当する人から、残念ながら、みんなと集うのが好きで、家ではほとんど作らない人までレベルもいろいろです。

紅1点、管理栄養士の西部先生を迎えて、朝10時に料理開始。お昼に自分たちが作った料理をいただきます。先生は大阪の伝統野菜や有機農法、食育への熱い思い入れをお持ちで、私たちは大きな影響を受けています。この年代の会員のほとんどは「男子厨房に入らず」のもとで育てられました。しかし、今、私たちは目覚め、「料理を作ろう」「学ぼう」としています。会員たちは、みんな優しくしっかりしていて、多彩なアイデアもひらめく、本当に楽しい仲間です。

春には花見に焼肉、秋には紅葉のもと、山荘での食事などイベントがいっぱいです。中には、本格的な蕎麦打ちに挑戦して、あちこちで振舞って喜ばれている会員もいます。来年は結成10周年を迎えます。現在、今までに作った全レシピを写真入りでCD化する作業に取り掛かっています。膨大な作業ですが、会員の熱意で完成に向かって進んでいます。

# 市民インタビュー この人に会いたくて



## 第37回

茨木市民の中から「いきいき生活の達人」を探し出し、紹介するコーナーです。話から見てくるその豊かな人生に、あなたもきっと勇気づけられることでしょう。

### “生涯学習”を実践する さかもと すえこ 坂本 寿栄子さん

今年90歳を迎えられる坂本さんは、茨木市が生涯学習センターを設立した最初の年(平成2年・1990年)から毎年欠かさず講座を受講されています。今も学ぶことが大好きな坂本さん。そのあふれるエネルギーの源はどこから来るのでしょうか。

#### 生涯学習センターへはすいぶん前から通われているそうですね。

養精中学校の横にできた時から通っています。当時は女性の受講生が多かったのですが、しだいに定年退職をした男性の受講生が増えてきました。そのころは、日本と世界の農業に関する講座や経済に関する講座などを受講していました。生涯学習センターが畑田町に移り家から遠くなってからは、1講座だけを受講するようになりました。

今、受講しているのは、西島先生の「江戸時代の町人文化—西鶴・近松から—」です。帰りのバスの待ち時間には、隣の図書館で本を読むことにしています。今読んでいるのは、鎌倉時代の『吾妻鏡』という歴史書です。

#### 生涯学習センターでの受講の楽しみは何ですか。

今、私が学んでいるのは、江戸時代の前半、上方が経済の中心だったころの西鶴や芭蕉、近松を代表とする町人文化についてです。私は大学で近世文学を専攻し、卒業論文が西鶴に関するものだったので、学者や時代の移り変わりによって、論じる所や捉え方がさまざまに変わることを知り、とても興味深く学んでいます。

私は若い時からずっと大学で勉強したいと思っていました。戦後の学制改革で男女共学になり、ようやく大学の門を叩くことができました。大学では、戦後大きく変わった世の中の流れも勉強しようと思いました。専門学校を卒業して10年以上経った昭和25年(1950年)のことです。

そして今、私の学ぶ意欲は少しも衰えていません。世の中の変化に気付かないと、正しい判断ができないと思うからです。そのためにも、いろいろなことを積極的に学び続けたいと思います。また、講座では、人との出会いも大切にしています。若い人と話をするのは楽しいし、今の世の中を知ることもなります。

#### ほかに趣味などはお持ちですか。

観劇、謡曲、俳句、お茶、お花とさまざまですが、絵も描いていて、茨木市美術展には時々出品しています。昨年は、熊野古道の新緑を描いた「山の道」と題した作品が、日本画部門で入賞しました。

私は城を見ることが好きで、特に山や谷、川の地形を利用して造った山城に興味があり、日本中を見て歩きました。

海外へは55回行きました。戦争で亡くなられた方への慰霊と参拝がきっかけでした。その後、南米ペルーのマチュ・ピチュやアフリカのケニア、エジプトなどを訪ねました。シルクロードは、キリスト教、イスラム教、仏教に分けて歩き、それぞれの文化に触れ、多くの刺激を受けました。

読書は今も大好きで、新聞やテレビは情報収集のためによく見ます。テレビは教育番組が好きで、中学や高校の英語、数学、理科などの講座を見て勉強しています。

#### エネルギーの源は何ですか。

何でもやってみようと思うことです。私は好奇心が旺盛ですからやりたいことはすぐに行動に移します。結果的にできなかったとしても、何もしないよりはいいのです。もう一つは鈍感になることです。人の言動にピリピリしないのです。自分は自分。「気にせず明るく」を心掛けています。

私がこうして楽しく暮らしていけるのは、子どもや孫、ひ孫が気に掛けてくれることと、もう一つ、ご近所の皆さんの温かさです。ほんとうにいつも親切にしてくださり、感謝しています。



昨年、美術展に出品した作品「山の道」